

水平的多様化を目指す言語教育

—「学士力」への批判と戦略的活用—

■ 話題提供 ■

松本剛次さん（長崎外国語大学）

KAORI KIMURA（University of Malaya）

ファシリテーター：小畑美奈恵・古賀万紀子・古屋憲章



■ 日時 ■

2021年9月3日（金） 20:00～22:00

オンライン開催（Zoom） ※参加費無料、要事前申込

お申込みはこちらから→ <https://tinyurl.com/yf8tlxqp>

※非会員の方もご参加になれます。



現在、日本国内の大学では「入学者の受入れに関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」、「卒業の認定に関する方針」という「三つの方針」の策定と公開が義務付けられています。そしてその策定の際の一つの参照枠とされているのが、2008年に発表された「学士力」です。

本例会においては、まずは、松本が、「学士力」を巡る現状と課題について、私見を交えながら報告します。松本は「学士力」自体には批判的な見解を示しながらも、それを戦略的に活用（利用）することで、「学士力」というものを、現状の「水平的画一化」としてのものから、それが本来的に目指すところである「水平的多様化」を実現するものへと変換できると考えています。また、大学教育全体の中ではどちらかと言うと脇に置かれている日本語教育、言語教育だからこそ、そこに切り込んでいけると考えています。報告後、ファシリテーターも参加して、それぞれの現場での実態について、参加者の皆さんと情報交換を行います。

続く木村は、マレーシアでの言語教育（日本語教育）の現状と、「水平的多様化」を目指すべく、どのような教育実践が可能かについて報告します。その後で再度、ファシリテーターと共に、参加者の皆様とそれぞれの現場でできることについて、意見を交わします。

皆様のご参加をお待ちしております。

お問い合わせ
言語文化教育研究学会企画委員会 Email: project@alce.jp

